

弥生の生活を体験! 田下駄は横長に履く

青谷上寺地遺跡展示館では、7月2日まで弥生時代の農耕具をロビーに展示しています。その中に、2種類の田下駄があります。田下駄は、湿田で農作業をするとき、足が泥の中に沈まないように履く農具です。下駄といえは、普通三つ穴で、親指で紐を挟むものを想像します。

弥生から時を超えて

青谷上寺地遺跡

青谷上寺地遺跡では、長方形の板に4つの穴が開いたものと、長方形の長辺に4カ所の挟りが入れたものが出土し、その総数は約200点になります。

四つの穴や挟りは、微妙に間隔が違い、人の足の形に合わせて、つま先の方を広く、かかとの方を狭く作られています。また、他の遺跡では、足を置くところがすり減ったり、足を置くところが高く作られたりしているものがあり、その形状から横

長で使用したものと考えられています。

それにしても、横長にして田下駄を履くと、通常の足ではつま先やかかとがはみ出してしまいます。最近まで使われていた例では、「つま先が少し板から出て泥に触れるくらいが歩きやすい」、「かかとは出てかまわない」などの意見もあるとか。でも半分以上はみ出せばどうでしょう。

体験の結果は、次回(8月1日号)で紹介します。

四つ穴の開けられた田下駄



挟りの入った田下駄を履く

環境大学

シリーズ vol.7

環境政策学科 / 環境デザイン学科 / 情報システム学科
http://www.kankyo-u.ac.jp/
E-mail:nyushi@kankyo-u.ac.jp

■問い合わせ先
入試広報課
☎(0857)38-6720

TOPICS

トピックス

気象予報士試験に合格

本年4月、環境政策学科3年の山田義隆さん(広島県出身)が、1月に行われた、気象予報士の試験に合格しました。本学では初めての快挙となります。気象予報士の制度は平成6年から導入され、全国に約5600人の気象予報士が登録されています。試験の合格率は6.2%と難関ですが、小学校の頃から気象に興味があったという山田さんは、3度目の挑戦で見事、栄冠を勝ち取りました。県内には15人の気象予報士がいますが、そのなかで最年少となります。



PROJECT

プロジェクト 研究紹介

～ホテルの生態調査～

環境政策学科4年 東野 正佳 さん

兵庫県西脇市で育った私は、実家の近くで河川改修が行われ、ホテルが急になくなったことから環境問題に興味を持つようになりました。

プロジェクト研究(卒業論文)では、鳥取地域の橿谷公園や、福部・青谷地域のホテルの生態について調査しています。具体的には、川から水を採取し、BOD(生物化学的酸素要求量)やCOD(化学的酸素要求量)などの測定を行います。さらに、物理的環境(川幅・川底・川岸の状態など)、人為的環境(住宅・照明・道路などの有無)、生物的環境(植生・生物の種類など)を調査、特に人間の活動がホテルに与える影響を、生息していない河川とでは、どう違うかを比較し、ホテルの棲みやすい環境について考察しています。

また、大学では水質に興味をもち、合格率20%の資格、公害防止管理者(水質1種)に合格することができました。今後も、水環境の保全を積極的に考えていきたいと思っています。

